



日乗連ニュース ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2005.10.26 No. 29 - 05

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office@alpajapan.org

The New York Times

日乗連インタビュー

2005年9月、米国主要メディアの一つである The New York Times 社から日乗連に対して「日本の航空安全」に関する取材の申し入れがありました。日乗連では 館野 洋彰 AA委員長 (Chairman of Accident Analysis Committee) が、約2時間半の電話インタビュー及び追加取材に応じ、その内容は10月5日付 The New York Times 本誌及び10月6日付 International Herald Tribune 紙 (The New York Times 社が100%出資している海外向け子会社) へ掲載され、全世界へ配信されました。

< 要旨 >

日本の航空会社では1985年の御巣鷹山事故以来重大死亡事故は起きていない。しかし最近のトラブルの多発は単に JAL だけの問題ではなく日本の航空界全体が危機的状況にあると言える。航空のあらゆる分野においてコスト削減が行なわれ、飛行間点検の整備士の削減や、Carry Over の多用なども安全性の低下を危惧せざるを得ない。最も大きな問題として、重整備の海外委託によりその品質は低下していると言う現場の声が高い。しかし会社は海外委託整備も自社整備士による整備もなんら違いは無く、コスト削減を行なっても、安全性は切り下げていないと述べた。航空アナリスト達は、「信用を回復するには数ヶ月若しくは数年掛かるだろう。航空会社にとってイメージは全てである」と言っている。



Copyright © 2005 by The New York Times Co. Reprinted with permission.

